

# 11・4 第5回測定所まつりの報告です♪

11月4日（土）キャンパスプラザ京都にて、落合栄一郎さん（カナダ在住、生物無機化学者）、山田耕作さん（京都大学名誉教授）のお二人をお迎えして「放射線の人体への影響を考える」をテーマに第5回測定所まつりを行いました。

約80名の方の参加があり、また原発事故避難者の方のお話や、多くの研究者の方の参加と発言があり、大変盛り上がりました。

落合さんの『21世紀の核問題』講演では、原爆開発から原発へと核開発へと進む過程で、大変な被曝被害が出ていること、核は人類を滅ぼすことがよくわかりました。

山田さんの「子どもの被曝に関する日本学術会議報告書を批判する」講演も、科学者の良心とは何かを鋭く問う内容でした。



## 【感想アンケートの一部を紹介します。】

### ★落合栄一郎さんの講演はいかがでしたか？

「核が人間と共存出来ないものであり、それにもかかわらず、世界の大国は犯罪的にこれを使用していることが改めて認識できました。私たちは反核の連動をもっと強く進める義務があります。」

「放射線被曝が人体にもたらす影響はとても大きくて、被曝量が大きければ大きいほど、ありとあらゆる病気のリスク比例して大きくなると聞き、またエネルギーに換算すればとても小さなもののはずなのに、人が死ぬことがあるという事実をはじめて知って、改めて放射線というものがどれだけ恐ろしいものかを実感しました。」

「放射線の人体への影響を基本から話して下さりとても分かりやすかった。」

※時間不足、もっと深く内容を知りたかったなどのご意見もたくさん頂きました。

### ★山田耕作さんの講演はいかがでしたか？

「甲状腺がんの発生と原発の距離など分かりやすかったです。キモとなる所を時間をかけていただくと更に分かりやすかったかもしれません。」

「放射性物質はガンだけでなく細胞の損傷を起こし、あらゆる病気を引き起こすものであることがわかりました。日本学術会議がきわめて非科学的な報告を出すことの罪深さは計り知れません。この事が一般的には知られていないのは大問題だとおもいました。」

「チェルノブイリ膀胱炎のデータには興味をもちました。」

### ★避難者のお話はいかがでしたか？

「避難者（原発賠償訴訟裁判原告）の皆さんのお話は伺うたびに胸に迫るものがあります。（原告が作成した手記の）本も美しい表紙を見るだけで皆さんの想いが伝わりますし、内容は涙なしには読めなません。3月15日の判決が公正であることを祈ります。」